

11月8日は いい歯の日



日本歯科医師会PRキャラクター
よ坊さん(佐賀県)



佐賀県歯科医師会会長
門司 達也

口腔がんについて 正しく知ろう

口腔がんは他のがん比べて発見しやすく、患者さん自身のセルフチェックに加えて、日頃のかかりつけ歯科医院の定期受診や行政などの口腔がん検診を受けることによって早期発見が可能です。皆さんもかかりつけ歯科医院を受診する際は歯だけではなく、必ず粘膜の状態もいっしょにチェックしてもらうように心がけてください。

①口腔がんの患者数

日本では年間約38万人が「がん」が原因でなくなっており、日本人全体の死亡率の約1/4で、死因の第一位になっています。そのうち、口腔がんが原因でなくなる患者さんの数は年間約8500人となっています。(令和5年)口腔がんの患者さんの割合は全がんの中でも1~2%程度といわれており、人口の高齢化に伴って、その割合も増加傾向にあります。

②口腔がんの危険因子

喫煙と飲酒が最大の危険因子といわれています。食道がんや肺がんなどのがんを同時性異特性に合併することがあり、治療にあたっては重複がんの有無を精査する必要があります。また、不適切な被せ物や入れ歯も口腔がんの原因のひとつでもあります。

③口腔がんの好発部位

口腔がんが最も生じやすい部位は舌で約6割をしめています。舌縁部とよばれる舌の側面に生じることが多く、初期のものは注意して観察しないと見落とすことがあります。

④口腔がんの初発症状

なかなか治らない口内炎(約2週間以上)、硬いしこり、粘膜が白くなって擦っても消えないといった症状が典型的な症状になります。その他にもしびれや痛み、歯ぐきからの出血や歯のぐらつきなどの症状を認める場合もあります。

⑤口腔がんの治療成績

口腔がんの治療成績はステージ(病期)によって大きく異なるため、早期発見早期治療が重要になってきます。口腔は食事や会話、容貌にも深く関わっており、進行がんになれば手術の範囲も大きくなり、食事や会話、顔貌に重篤な後遺障害を残すことがあります。口腔がんの中でも最も多い舌がんではステージ1、ステージ2といわれる早期の段階であれば手術が選択されることが多く、5年生存率は約80~90%以上といわれています。早期であれば、ほとんど後遺症を残すことなく完治が期待できます。



日本歯科医師会
Japan Dental Association
<https://www.jda.or.jp>



佐賀県歯科医師会
<https://www.saga-dental.or.jp>

